

7つのチェックで選べる、わが家の日立エコキュート

1 お住まいの地域の最低気温は、何℃ですか？

最低気温 **-10℃** までの地域

一般地仕様 **-10℃対応**

●エコキュート設置地域の目安

主に平成28年省エネルギー基準^{※1}における地域区分
4・5・6・7・8地域、および最低気温が-10℃までの地域

最低気温 **-25℃** までの地域

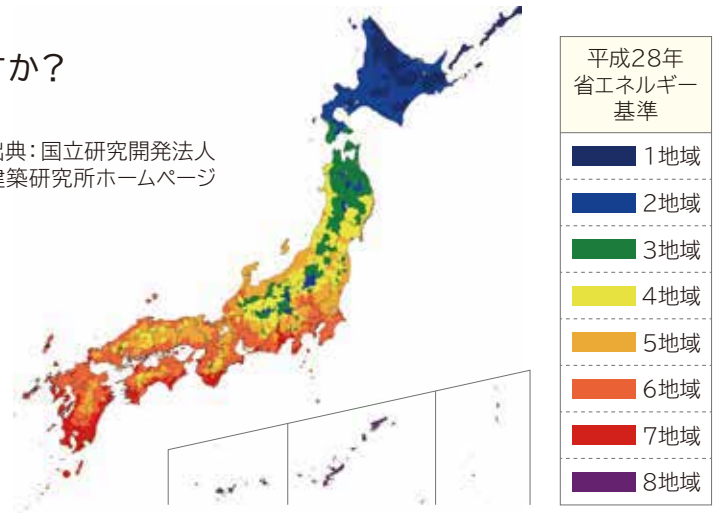
寒冷地仕様 **-25℃対応**

●エコキュート設置地域の目安

主に平成28年省エネルギー基準^{※1}における地域区分
1・2・3地域、および最低気温が-25℃までの地域

※最低気温-25℃を下回る地域では、ご使用になれません。

※1 出典：国立研究開発法人
建築研究所ホームページ



2 お住まいの地域は、塩害の影響はありますか？

潮風が直接当たりやすい臨海エリアにお住まいの場合、標準仕様のエコキュートは使用できません。耐塩害仕様、耐重塩害仕様をお選びください。※塩分を含んだ水が、直接かかる場所ではご使用になれません。

塩害の影響が
ない場所

標準仕様

潮風にはかからないが
その雰囲気になるような場所

耐塩害仕様

潮風の影響は受けるが
塩分を含んだ水が直接かからない場所

耐重塩害仕様

3 ご使用の水質は？

まず水質基準に適合していることを確認してください。水道水の場合、硬度と遊離炭酸濃度を自治体のホームページから調べられます。上記で確認できない場合や井戸水をご使用の場合は別売の簡易水質チェックキット(WQC-KIT)で確認できます。※水質基準に適合しない場合や硬度:200mg/Lを超える、または遊離炭酸:60mg/Lを超える水道水や井戸水の場合はご使用になれません。

標準仕様

●水道水：硬度100mg/L未満、
遊離炭酸20mg/L未満

ナイアガラタフネス(高硬度水道水・井戸水対応仕様)

●水道水：硬度200mg/L以下、遊離炭酸60mg/L以下
●井戸水：硬度200mg/L以下、遊離炭酸60mg/L以下

4 設置場所のスペースは？ ※狭小スペースの場合は別途、メンテナンススペースが必要です。

ゆったりスペースの場合

標準タンク



狭小スペースの場合

薄型タンク(幅450mm)



5 給湯タイプをお選びください

フルオート

湯はり、保温、たし湯を
全て自動で行います。



給湯専用

混合水栓を手動で開いて湯はりをします。
(湯はりを自動で停止する
オートストップ機能付もあります。)



6 給湯の水圧をお選びください ※水圧は、給水元圧が低い場合、最高使用圧力の値が低くなる場合があります。

水道直圧給湯方式(最高使用圧力**500kPa**)

◎パワフルシャワーをご希望の方にすすめ。

減圧弁方式(最高使用圧力**190kPa**)

※薄型タンクは、最高使用圧力290kPa。
※フルオート標準タンク(高機能)は、最高使用圧力195kPa。

7 ご家族の人数と、お湯の使用量に応じてタンク容量をお選びください

タンク容量	ご家族の人数	湯はり	シャワー	洗面・台所
<input type="checkbox"/> 560L	5~7人	1回	7回	110L
<input type="checkbox"/> 460L	4~6人		6回	100L
<input type="checkbox"/> 370L	3~5人		5回	90L

※試算条件：タンク湯温80℃。水温5℃。湯はり温度42℃。浴そう湯量180L。シャワーは温度42℃。毎分10Lにて1回で8分使用。洗面・台所は温度42℃。※浴そうの湯量、シャワーの使いかたなどによって値は変わります。

●耐塩害・耐重塩害仕様について

※一般社団法人 日本冷凍空調工業会標準規格(JRA 9002)に準拠

耐塩害仕様

潮風にはかからないが、その雰囲気にあるような場所に設置する仕様

設置距離の目安	300m	500m	1km
内海に面する地域(瀬戸内海)	耐塩害仕様		
外洋に面する地域	耐重塩害仕様		耐塩害仕様
沖縄・離島	耐重塩害仕様		耐塩害仕様

耐重塩害仕様

潮風の影響を受ける場所に設置する仕様
ただし、塩分を含んだ水が直接かからないこと

設置距離の目安	300m	500m	1km
内海に面する地域(瀬戸内海)	耐重塩害仕様	耐塩害仕様	
外洋に面する地域	耐重塩害仕様		耐塩害仕様
沖縄・離島		耐重塩害仕様	

●耐塩害・耐重塩害仕様についてのご注意

耐塩害・耐重塩害仕様は素材や塗装内容を強化していますが、腐食に対して万全ではありません。このため、次のような据付計画と保守を行うことで防食効果を高める必要があります。①海水飛沫および潮風に直接さらされることを極力回避するような場所へ設置してください。●本体の設置は建物の風下にしてください。●やむを得ず海岸面に本体を設置する場合は、防風板を設けて直接風が当たることを避けてください。②キャビネットに付着した海塩粒子が雨水によって十分洗浄されるように配慮してください。③ヒートポンプユニット底板内への水の滞留は、著しく腐食作用を促進させるため、底板内の水抜け性を損なわないよう、傾きなどに注意してください。④海岸地帯への据付品については、付着した塩分等を除去するために定期的に水洗いを行ってください。⑤据え付け、メンテナンス等にて付いた傷は、必ず補修してください。⑥機器の状態を定期的に点検してください。(必要に応じて再防錆処理や部品交換等を実施してください。)⑦水はけの良い場所に設置してください。特に基礎部分の排水性を確保してください。